



4-2

じょし 所有を表す助詞

ポイント



1. 日本語の「～の（「私の本」など）」は、しまむにでは、

①「何も付けない（助詞なし）」、② 助詞「が」、③ 助詞「ぬ」のいずれかで表す。

2. ①、②、③の表し方は、前の名詞の意味によって使い分ける。

日本語では「^{わたし}私の家」「父の家」「人の家」など、ものの持ち主などを表す時に「の」という助詞を
使います。しまむにでは、日本語の「の」に対応する言い方として3種類の言い方があります。

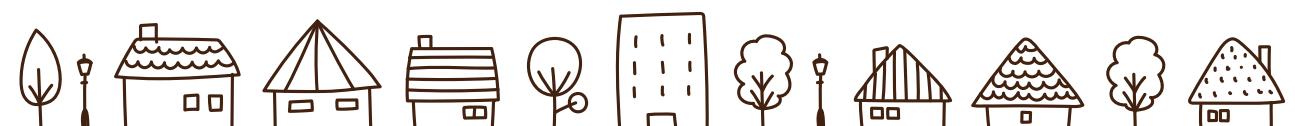
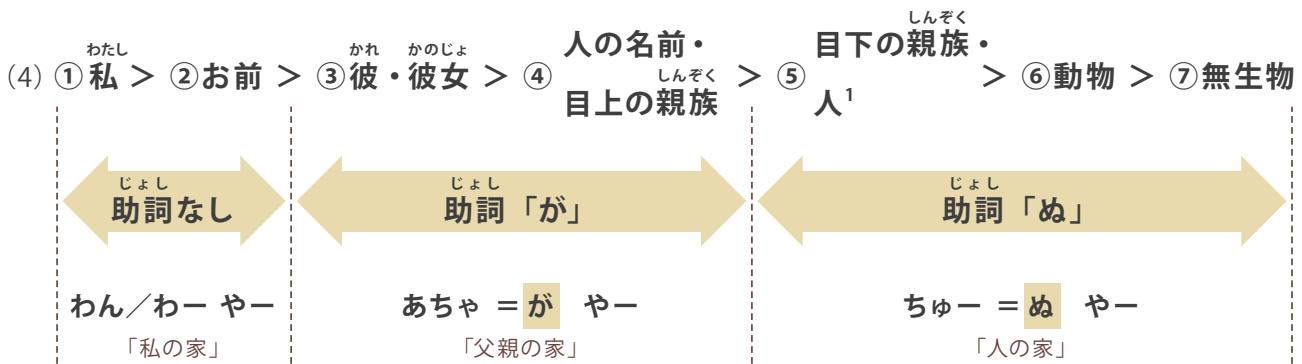
(1) では「家」の持ち主の「私」に「^{わたし}何も助詞がついていません」。(2) では「家」の持ち主の「父親」に、助詞「^{じょし}が」がついています。(3) では「家」の持ち主の「人」に、助詞「^{じょし}ぬ」がついています。

(1) わん／わー やー
私 家
^{わたし}
「私の家」

(2) あちゃや =^{*} **が** やー
父親 の 家
「父親の家」

(3) ちゅー = **ぬ** やー^{*}
人 の 家
「人の家」

この3つの表し方は、どのように使い分けられているのでしょうか？ この使い分けは、「主語と目的語」の回でも出てきた「有生性の階層」という言語学の理論で説明できます。「有生性の階層」とは、簡単に
いうと「名詞を（自分に近い）生き物らしい順番にならべたもの」で、しまむにでは、(4) のようになります。



1 「男」「女」などの抽象的な人の名詞。

* このテキストでは、他の言葉と区別するために、助詞の前に「=」をつけています



所有(～の)を表す時に、

①私、②お前の名詞は、助詞を何もつけません。

③彼・彼女と④人の名前・目上の親族の名詞は、助詞「が」を付けます。

⑤目下の親族・人 ⑥動物 ⑦無生物は、助詞「ぬ」を付けます。

このように、しまむにで所有や所属などを表すときには、名詞の意味によって、助詞の有無や種類を使い分けているのです。

練習問題

以下の名詞を使って、①～⑥をしまむにに直してみましょう。

わん／わー (私)

うら (あんた)

みー (兄)

いー んが (男)

くわー (子・子ども)

みゃー (ねこ)

ふい (声)

たろう (太郎)

「」は、小さい「つ」のように、のどをしめる音を表す

(1) 私の子ども ()

(2) 太郎の子ども ()

(3) 猫の子ども ()

(4) 男の声 ()

(5) 兄の声 ()

(6) あんたの声 ()

